

山階鳥類学雑誌投稿の手引き

山階鳥類学雑誌 Journal of the Yamashina Institute for Ornithology は、広く鳥類に関する原著論文、短報、総説、研究ノート（学術知見をまとめて考察するには情報などが不十分であるが速報性を重視した論文）、評論（学術論文に対する意見、反論）、観点（先行研究などを踏まえての新しい研究課題の意義や今後の展開の論議）、学術資料（学術への貢献を目的とした情報や資料、データを公開）、雑録（紀行文、学界への希望的意見や情報交換、書評や誌碑など）を掲載する。掲載分野は自然科学から人文科学にわたるあらゆる学問領域とし、自然科学系であれば、観察記録や記載論文、仮説検証論文にいたる様々な形式を含む。年2回発行し、1年で1巻とする。

・原稿の書き方

原稿はA4用紙の上下左右に3センチ程度の余白をとり、日本語または英語を用いて横書きで作成する。原則としてワードプロセッサ等を使用して作成する。この際、10ポイント以上の文字サイズを使用し、紙面に20から25行程度とする。英文の場合、右端の単語のハイフネーションは行なわない。原稿は用紙の片面のみに記入する。

原稿の第1ページには、表題、本文・図・表の枚数、著者名、著者（2名以上の場合は責任著者）の住所、電話番号、電子メールアドレスを記入する。また、原著論文、短報、総説、研究ノート、評論、観点、学術資料、雑録のどのカテゴリーとして投稿するのか明記する。第2ページからタイトル、著者、著書の所属・住所を含む本文を開始し（下記の論文の構成を参照）、下端中央の余白にはページ番号を記入し、左の余白に各行の行番号を記入する。

原著論文、短報、総説または研究ノートの場合、言語に応じて「はじめに **Introduction**」から「論議 **Discussion**」まで等の項目を立てて記述する。評論、観点、学術資料、雑録の構成はこの限りではない。短報は印刷ページ数が10ページ以内とする。印刷ページ数10ページの目安は、図表分を勘案せずに和文なら15,000文字程度、英文なら39,000文字程度（スペース含む）である。日本語の短報および研究ノートにおいては、日本語摘要は省略する。日本語の論文では句読点は「、」と「。」を用いること。英語の論文では、英語表現の問題によって却下されることがある。したがって、著者の責任において投稿前に英文校閲を行うことを強く勧める。

[日本語の論文の構成]

表題（日本語）、著者名（日本語）、表題（英語）、著者名（英語）、全ての著者の所属・住所（日本語と英語）、**Abstract**（英語）、**Key words**/キーワード（英語と日本語）、はじめに、方法、結果、論議（あるいはまとめて「結果および論議」としてもよい）、謝辞、摘要、引用文献、図の説明文、表、図、（付表・付図）。評論、観点、学術資料、雑録はこの限りではない。

[英語の論文の構成]

表題 (英語), 著者名 (英語), 全ての著者の所属・住所 (英語), **Abstract** (英語), **Key words**/ キーワード (英語と日本語), **Introduction, Methods, Results, Discussion** (あるいはまとめて「**Results and Discussion**」としてもよい), **Acknowledgments, References**, 表題 (日本語), 摘要 (日本語), 著者名 (日本語), 全ての著者の所属・住所 (日本語), Figure legend, Table, Figure, (Appendix)。評論, 観点, 学術資料, 雑録はこの限りではない。

Abstract は原則として300語以内, 摘要は800字以内とする。ともに論文の目的, 方法, 主要な結果および結論を簡潔に記載する。箇条書きにせず, 改行をしない。**Key words** は5つ以内とし, アルファベット順 (頭文字は全て大文字) に配列する。また, 日本語のキーワードは対応する英語の **Key words** と同じ順序に配列する。

・生物名と単位

引用文献リストを除き, 本文中に用いられた英語の鳥名は単語の先頭を全て大文字で記し (例: Tree Sparrow), 他の生物名は小文字とする。生物の和名はカタカナ書きとする。**Abstract**, 本文, 摘要のそれぞれにおいて, 初出の生物名には学名を併記する。学名はイタリック体で印刷する。計量単位は国際単位系 (SI) を使用するが, 論文および報告の内容上, 特に必要と認められる場合は, それ以外の単位も使用できる。

・標本および実験サンプル

用いた標本や組織サンプルなどは, その所蔵機関と登録番号を明記すること。また, 研究の結果として得られたDNA塩基配列のデータはDDBJ/GenBank/EMBLなどのデータバンクへ登録し, その登録番号を明記すること。

・文献の引用

本文中での文献の引用は, Wilson (1995), あるいは, (Wilson 1995) のように表記する。複数文献を引用する場合は, (Lack 1966; Wilson & Brown 1998) のようにセミコロンで区切る。同一著者で複数年の文献がある場合は, (Wilson 1992, 1993) のように示す。同一著者に同一年の文献がある場合は, (Wilson 1986a), (Wilson 1986b) のように記号を用いて区別する。著者が2名のときは, (Wilson & Brown 1998), (川崎・山田 1971) のように「&」「・」でつなげる。著者が3名以上のときは, (Wilson et al. 1988), (川崎ら 1985) のように第二著者以下を「et al.」「ら」を用いて省略する。複数文献を列挙して引用するときは年代順に配列し, 同一年の文献は著者名のアルファベット順に並べる。未発表データを引用する場合は, (Wilson unpublished), (川崎 未発表) などのように示し, 複数文献を列挙して引用するときは未発表データを最後に引用する。受理されて印刷段階にある文献は, (Wilson in press), (川崎 印刷中) のように引用する。

・引用文献のリスト

本文中に引用された文献のみをもれなく記載する (未発表データの引用は記載しない)。文

献は著者名のアルファベット順に配列し、第一著者が同一の場合、第二著者以降の著者名のアルファベット順に配列する。同一著者の文献は年代順に配列する。英語論文における引用文献リストでは、文献が記述されている言語にかかわらず全て英語でリストを作成し、「(in Japanese)」 「(in Russian with English summary)」のように記述言語を末尾に付記する。英文の表題がない文献は、ローマ字表記にするが、適切な英文の表題も括弧書きで付記する。日本語論文における文献リストでは、日本語で書かれた文献のみを日本語で記載し、それ以外は英語で記載する。この場合も、日本語・英語以外の言語で記述された文献には、可能ならば表題の後に原語表題を括弧書きで付記し、記述言語を付記する。受理されて印刷段階にある論文は、年号の代わりに「in press」「印刷中」と示し、巻やページはわかる範囲で記入する。

引用文献は、単行本、単行本内の論文、雑誌等の論文、あるいはインターネット上の情報のいずれかに属し、それぞれ以下の要領で記載する。なお、著者名は順位によらずいずれも姓を先、名を後に記し、著者が複数の場合は英語では「,」と「&」で、日本語では「・」で区切る。日本語で日本人の著者名を表記する際、その文字数が姓1、または名1の場合は、姓と名の間に全角1文字分のスペースを入れる(例: 千葉 真, 田 進一, 鳥 啓, 鳥 新一郎, 千葉田 啓)。

[単行本の場合]

著者名、発行年、書名(英語のときはイタリック指定)、発行所、発行地の順に、以下の例のように記載する。編書、編著書である場合は、著者名の後に(編)(編著)(ed)などをつける。また、学位論文の引用は単行本の引用形式に準ずる。

Lack D (1966) *Population studies of birds*. Clarendon Press, Oxford.

黒田長久(1982) 鳥類生態学. 出版科学総合研究所, 東京.

Cramp S & Perrins CM (eds) (1988) *The birds of the western palearctic, vol. 5*. Oxford University Press, Oxford.

山岸 哲(編著)(1997) 鳥類生態学入門. 築地書館, 東京.

Freeman S (1991) *Molecular systematics and morphological evolution in the Blackbirds*. PhD. dissertation, University of Washington, Seattle.

[単行本内の論文の場合]

著者名、発行年、表題、掲載書の編者名、掲載書名(英語のときはイタリック指定)、引用ページ、発行所、発行地の順に、以下の例のように記載する。

Walters JR (1998) The ecological basis of avian sensitivity to habitat fragmentation. In: Marzluff JM & Sallabanks R (eds) *Avian conservation: 181–192*. Island Press, Washington, D.C.

永田尚志(2002) 鳥類の生活史戦略. 山岸 哲・樋口広芳(共編) これからの鳥類学: 40–66. 裳華房, 東京.

[雑誌等の論文の場合]

著者名、発行年、表題、掲載誌名、巻、ページの順に、以下の例のように記載する。掲載誌名はそれぞれの雑誌が定めた略称を用いる。

Oka N, Yamamuro M, Hiratsuka J & Satoh H (1999) Habitat selection by wintering tufted ducks with special reference to their digestive organ, and to possible segregation between neighboring populations. *Ecol Res* 14: 303–315.

上田恵介 (1994) 拡張された精子競争鳥の社会行動の進化と同性内淘汰. *山階鳥研報* 26: 1–46.

[インターネット情報の場合]

インターネット上の情報は永続性に問題があるので、やむを得ない場合を除いて引用しない。引用する場合は、印刷物に準じ、著者名、表題、発行機関名、入手先URL、参照日等を記載する。

Gill F & Donsker D (eds) (2018) IOC World bird list (v 8.2). <http://www.worldbirdnames.org/>, accessed on 21 September 2018.

国土地理院 (2018) 地理院地図 (電子国土Web). 国土地理院. <https://maps.gsi.go.jp/#18/35.862155/140.030834/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0f1>. 参照 2018-9-21.

・図表

日本語の論文では、原則として英語を併記する。1枚の用紙に1点ずつ作成する。図は印刷されても十分読みとれるような解像度で作成する。図表にはそれぞれ通し番号をつけ、1点のみの場合も「図1」「表1」「Fig. 1」「Table 1」とする。写真も図として扱う。原則として、写真を含めて図はモノクロとする。投稿原稿上でもモノクロでなければならない。ただし、編集委員会によりカラーが必要不可欠と判断された場合はカラーで掲載する。モノクロと判断されている図を、著者の希望によりカラー印刷する場合は、費用を著者が負担することによってカラーで掲載できる。図の説明はまとめて記入し、図中には記入しない。表の説明は表の上に記入する。本文中で複数の図表を引用する場合は、(図 1, 2), (Figs. 1 and 2), (表 3, 5, 7), (Tables 3, 5 and 7) のように示し、連続する場合は (図 1–3), (表 5–7) のように示す。

・附表, 付図

必要に応じて附表, 付図をつけることができる。作成は図表と同様の要領で行なう。通し番号をつけ、1点のみの場合も「附表1」「付図1」「Appendix 1」とする。原稿中では、附表は表の次、付図は図の次に配置する。

・原稿の送付

電子ファイルとして作成された原稿は電子メールに添付して <journal@yamashina.or.jp>宛てに送る。原稿を作成するアプリケーションはMS Wordが推奨される。この場合、MS Wordの標準ファイル形式で投稿できる。それ以外のファイル形式であれば、PDFファイルとして投稿するか、テキスト形式 (文字コードのみのファイル) で投稿する。図はテキストファイル内に含まれる形か、別のPDFファイルとしてもよい。電子ファイルを電子メールで添付する方

法ができない場合、原稿のコピー1部を折らずに以下の宛先に送付する。原図あるいはオリジナル写真は受理されるまで送付しない。

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115 山階鳥類研究所編集委員会

原稿が投稿規定に従って作成されていない場合は、受け付けない場合がある。

・原稿の審査

受け付け後の原著、短報、総説は、2名以上、研究ノート、評論、観点については1名以上の査読者によって査読を受ける。編集委員会は、査読者の意見に基づき掲載の可否を決定する。また、編集委員会は著者に対して内容や字句の修正などを要求することができる。著者は原稿を改訂し、査読者の指摘に対してどのように対処したかを明記した文書ファイルを添えて、〈journal@yamashina.or.jp〉宛てに再投稿する。原稿の掲載が不相当と判断された場合は、その理由とともに著者に通知する。学術資料と雑録については、編集委員会から要求された字句や表現の修正などを経たのち、編集委員会の判断により掲載可否を決定する。

・受理後の手続き

編集長が原稿の掲載を認めた日付をもって、受理の日付とする。原稿が受理されたら、原図あるいはオリジナル写真、最終稿を電子メールにより送付する。別刷は初校校正時に指定の用紙に希望部数を記入する（1部単位で可）。別刷は1論文につき50部まで無料で受け取ることができる。希望部数が50部より多い場合、超過分については著者が実費を負担する。

初校は原則として著者が行ない、およそ1週間以内に返送する。初校では印刷上の誤りのみを修正し、内容の変更は認めない。再校以降は編集委員会が行なう。

・連絡先電子メールアドレス：journal@yamashina.or.jp